

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス アクロスJOY		公表日	令和7年3月25日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	3		法令を遵守したスペースを確保している。課題に集中できるよう刺激が少なく情報が効果的に伝わる環境設定を心がけている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3		必要な配置基準を満たした人員で支援している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3		目標設定や療育の振り返りに全職員が参加し、意見を出し合っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3			今年度が初年度なので、いただいたご意見やこの自己評価の結果を業務改善につなげていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3		日頃より職員間で業務の効率化に努めて意見交換しながら業務にあたっている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		3		第三者による外部評価は現在受けていないが、必要に応じて検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	3		定期的に必要研修や療育研究を行っている。	職員配置で可能な限り、外部研修にも参加していく。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	2	1	療育説明にてプログラムの全容を説明している。令和7年3月にホームページにて公表済み。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	3		保護者の方のニーズを聞き取り、個別支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3		個別支援計画の作成時と児童の処遇会議にて、職員間で意見を出し合い、必要に応じて見直し等を行っている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	3			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3		全利用児童の支援内容に、5領域の視点を取り入れた個別支援計画を作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3		活動がマンネリ化しないために、固定化したプログラムと週によって変わる活動を、全職員が	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3		意見を持ち寄って組み立てている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3		曜日によって個別での支援と集団での活動を分けており、お子様に合わせ活動内容や目標を変えている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	3		療育前にその日の打ち合わせを行い、支援内容や担当の確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3		翌日に前日の支援の振り返りを行い、課題や対応策を検討している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	3		利用日の様子は毎日記録をとり、定期的に振り返り、支援の見直し等を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	3		個別支援計画作成時に決定した時期にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3		なるべく1人ではなく、多方面から意見が出せるよう携わる職員複数で参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3		保護者の方や、関係機関(学校)からの要請があった時、必ず出席して情報共有を行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		園からの相談があった際は、保護者の方に承諾をいただき訪問したりお電話等でできる限り情報共有をしたりしている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3		ご家庭からのご要望があった場合は、できる限り日程を合わせて連絡会議に参加している。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	1		研修等がある場合、職員の希望に応じて参加できる体制を整える。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		3		現在は、基本的には事業所内での感覚統合運動プログラムを実施している。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3		日々の様子は送迎時や利用日にLINEにて保護者の方へ共有している。必要に応じて見学や面談も受け付けている。	文面では伝わらない部分があるため、面談の機会を増やしていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	1	面談等により、ご家庭での対応方法に困っている相談を受けた際は、お子様の状況に合わせた手立てを助言している。	研修会等のご希望を受けているので、ご家族が気軽に参加できる研修会等の企画を検討する。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	3		契約の際に説明を行っている。	すでに他事業所を利用している方に対しても、確認の意を込めて丁寧な説明を行う。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	3		モニタリング時に本人の希望や、保護者の方の意向を聞き取り、計画に反映させている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	3		モニタリング時に確認した意向を追記・修正し、同意を得て計画を配布している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	3		活動の様子をお伝えする中で、相談に応じたり、面談等の機会を設けたりしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		3		保護者会等のご家庭によって希望が異なるため、任意で保護者の方やご兄弟も参加し交流が出来るイベント等を企画していく。
40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	3				

	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	3		LINEにてその週の活動の様子を写真も含め発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3		個人情報は鍵付き書庫にて保管している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3		利用日や時間などの連絡は、必要に応じてお互いに見返すことが出来るLINEにて連絡をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3			保護者の方の要望等を参考にしながら企画を検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3		職員間での周知や必要な訓練を行っている。	マニュアルについて、事業所内への掲示のみで、保護者の方への周知が不足していたため、再度周知する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3		策定した業務継続計画に基づき、必要な避難訓練を実施している。令和6年度は9月と3月に実施した。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	3		初回のアセスメントの際に、服薬状況や体質（アレルギー等）について、またその対応について確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3		食事提供は行っていないが、小学生のプログラムでは課外活動で調理等があるため、対象となる食材等は事業所内で使用していない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3		安全計画を作成し、必要な研修や訓練を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3			事業所内の掲示のみであったため、配布やホームページ内に掲載する等、再度周知方法を検討する。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	3		ヒヤリハットを集め、毎月1回ヒヤリハットの共有と是正を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	3		計画通りに、定期的に虐待防止研修を行い、全職員が参加している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	3		契約時に契約書に基づき対応を説明している。		